

## 「輝きあふれる夢に向かって」

昨年は、東日本大震災をはじめ、自然災害による影響を大きく受けた一年でありましたが、これらの経験を踏まえ、本年も引き続き、市民の誰もが安全で、安心して、心豊かに暮らすことができる地域社会の実現を目指して、市政運営に取り組んでまいります。

東日本大震災からの復興に向けましては、これからも困難な課題とともに、長い道のりが予想されます。

また、福島第一原子力発電所の事故は、電力不足や放射線への不安という問題を引き起こしただけでなく、わが国のエネルギー問題や私たちのライフスタイルに対する考え方にも強く影響を及ぼしております。被害の全貌は未だに明らかになっておりませんが、一日も早い収束に向け、国民の英知を集めて取り組んでいく必要があります。

世界に目を向けますと、欧米ではギリシャの財政破綻が表面化し、イタリア、スペインなどにも飛び火する状況に陥ることにより、ドル安に続きユーロ安が進行しております。この影響を受け、わが国におきましても戦後最大の円高を記録し、輸出企業を中心とする株価の下落にも波及するなど、世界経済を取り巻く情勢も先行きが不透明となっております。

一方で、昨年は、「なでしこジャパン」がサッカー女子ワールドカップで世界一の座を獲得するという大変嬉しいニュースもありました。テレビ画面を通して観た“なでしこ”たちの最後まで諦めないプレーやチームメイト同士の絆・信頼感などに、多くの国民が感動し、励まされました。

また、本市におきましては、昨年、リニア中央新幹線の神奈川県の新駅が市内に設置されることが正式に決定いたしました。さらに、平成24年度には、さがみ縦貫道路の（仮称）相模原インターチェンジの開通も予定されています。

かねてから、「首都圏南西部の広域交流拠点都市」というビジョンを掲げて市政運営に取り組んでまいりましたが、今、それに向かって着実に歩を進めているという手応えを実感しております。

こうした国内外の社会経済情勢や本市を取り巻く状況を踏まえ、住民に最も身近な基礎自治体として、「何が求められているのか」を考え、スピード感をもって行動に移していかなければなりません。また、市民一人ひとりが輝きあふれる未来を夢見て日々の生活を送ることができるよう、取組みを積み重ねてまいりたいと考えております。

こうしたことから本年は、「輝きあふれる夢に向かって」をテーマといたしまして、

- 1 安全で安心して暮らせるまちづくり
- 2 夢と希望あふれる次世代をはぐくむ環境づくり
- 3 にぎわいと活力に満ちた都市づくり
- 4 身近な暮らしの中から自然と地球を考える社会づくり
- 5 市民が主役の郷土づくり
- 6 「変える」・「創る」・「挑戦する」“3つのC”の推進（Change、Create、Challenge）

の6つを柱として市政運営に取り組んでまいります。

主な取組みといたしまして、

## 1 安全で安心して暮らせるまちづくり

想定をはるかに超える東日本大震災の教訓を踏まえ、防災対策の基礎となる地域防災計画の見直しを行うとともに、災害に強いまちづくりに向け、既存住宅の耐震化促進を図ってまいります。

また、介護や支援を必要とする高齢者を支える体制を推進し、緊急性が高い要介護者の入所待機者の解消を図るため、特別養護老人ホーム等の整備促進を行ってまいります。

加えて、発達障害のある人がそれぞれのライフステージに応じた適切な支援を受けることができる体制を整備するため、陽光園内に「発達障害者支援センター」を開設してまいります。

## 2 夢と希望あふれる次世代をはぐくむ環境づくり

神奈川県と共同で実施していた教員採用試験を、市に愛着のある優秀な教員を独自に確保するため、本年度から単独で実施してまいります。

また、喫緊の課題である保育所待機児童の解消に向け、認可保育所の新設などにより、児童受入枠の拡大を図ってまいります。

## 3 にぎわいと活力に満ちた都市づくり

リニア中央新幹線建設や小田急多摩線延伸等を展望し、相模総合補給廠の返還跡地利用も視野に、「首都圏南西部における広域交流拠点」にふさわしい魅力ある都市づくりを進めるため、橋本駅及び相模原駅周辺等の実態調査や土地利用計画、交通計画、整備手法等の検討を行います。また、「さがみ縦貫道路」の（仮称）相模原インターチェンジへのアクセス道路（県道52号）の整備や、インターチェンジ周辺の交通利便性を活かした産業拠点の整備に向けた取組みを進めてまいります。

## 4 身近な暮らしの中から自然と地球を考える社会づくり

地球温暖化防止に向けた取組みを更に推進していくため、（仮称）地球温暖化対策推進条例の制定をはじめ、太陽光発電システム設置補助件数の拡充や電気自動車の普及促進を図ってまいります。また、環境への負荷を低減する循環型社会の形成に向け、市民が家庭で取り組むことができる、家庭ごみの減量化・資源化を推進してまいります。

## 5 市民が主役の郷土づくり

自然や歴史、文化など特色ある資源を活用し、本市の魅力を全国に発信するなど、都市ブランドの構築とシティセールスに取り組んでまいります。また、皆で担う市民社会の実現に向け、市民協働推進基本計画を策定するほか、退職世代の経験と力を地域活動につなげる環境づくりを進めてまいります。

## 6 「変える」・「創る」・「挑戦する」“3つのC”の推進（Change、Create、Challenge）

少子高齢社会や景気低迷などの社会経済情勢、合併や政令指定都市への移行などの本市の環境変化を踏まえ、「さがみはら都市経営ビジョン」の見直しを行ってまいります。

また、本市を含む圏域全体が将来にわたって持続的に発展していくため、その推進エンジンたりうる、本市独自の新たな大都市制度について検討を進めてまいります。

依然として厳しい財政状況ではありますが、多くの市民や企業の皆さまから「このまちに住んでいてよかった」、「ずっと住み続けたい」と思っただけのように、将来にわたって持続可能な都市経営に取り組むとともに、更なる市民サービスの拡充を図るため、市民目線に立ったまちづくりを進めてまいります。